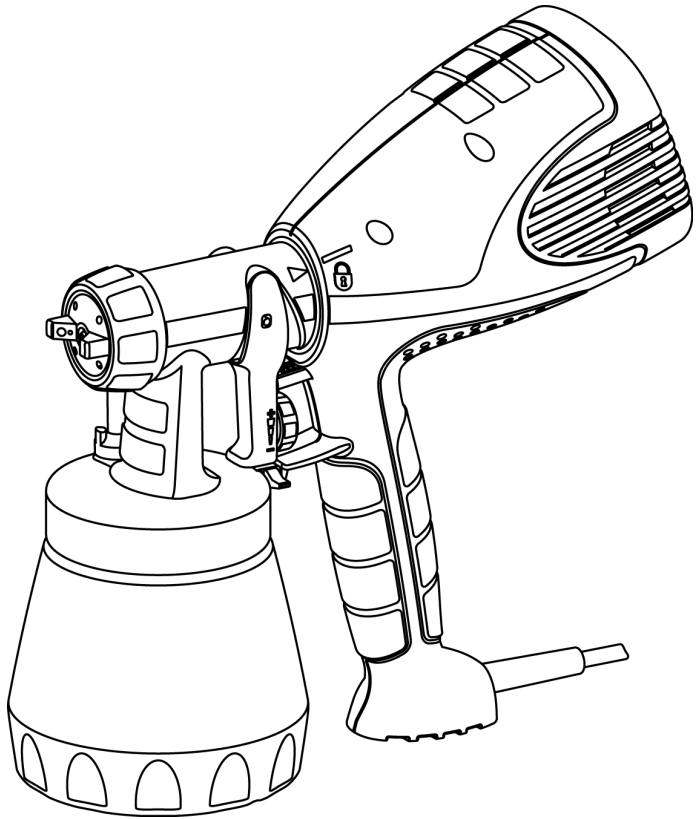


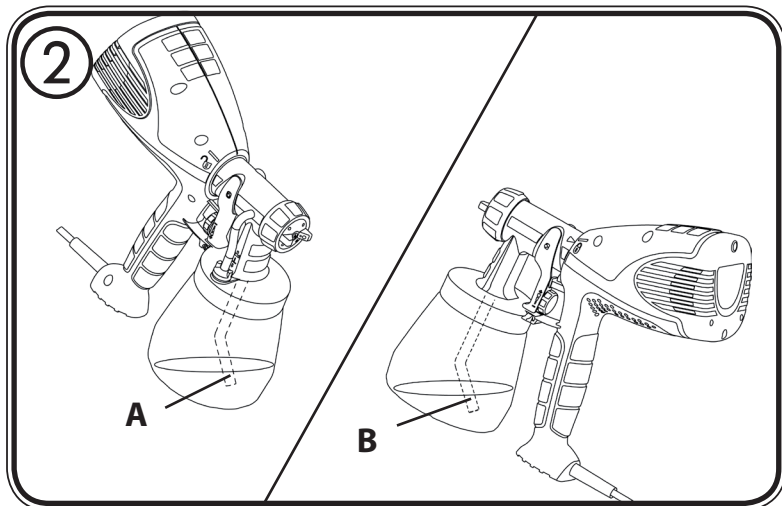
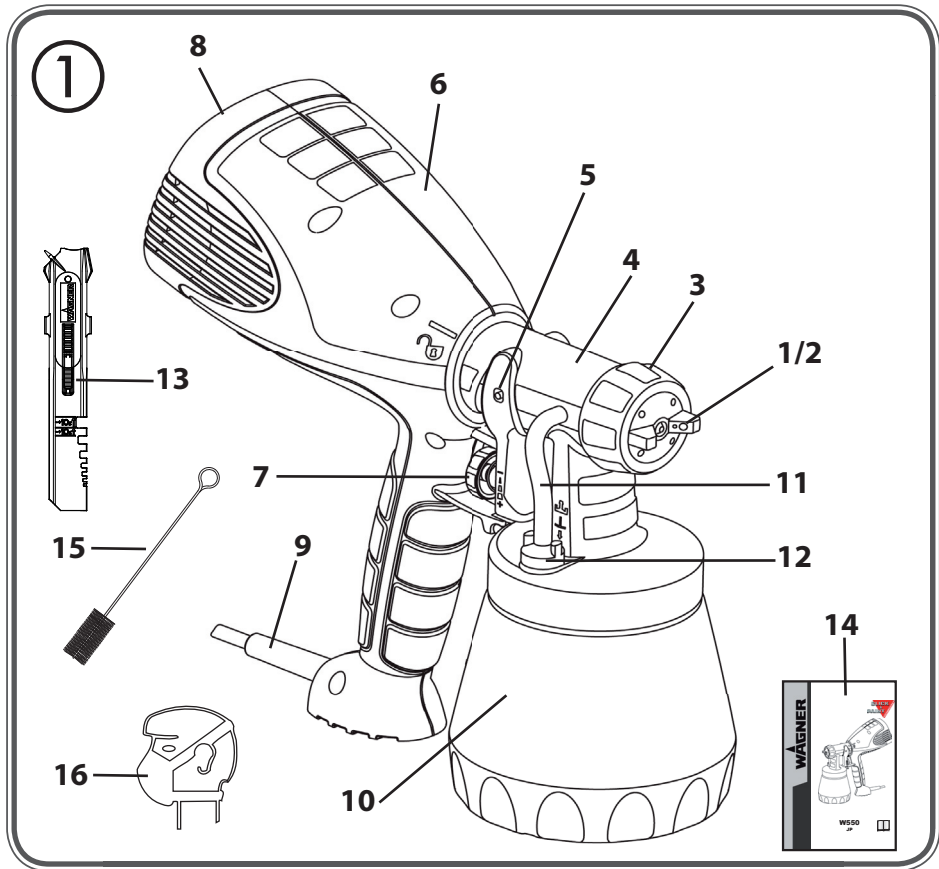
# WAGNER

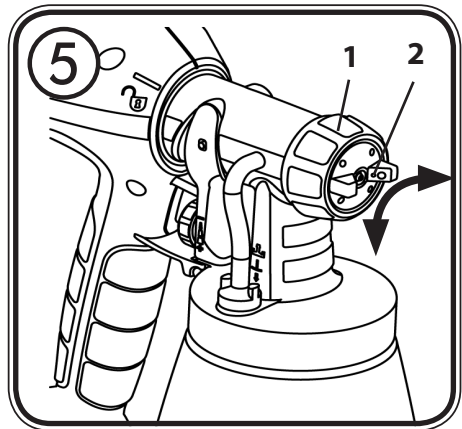
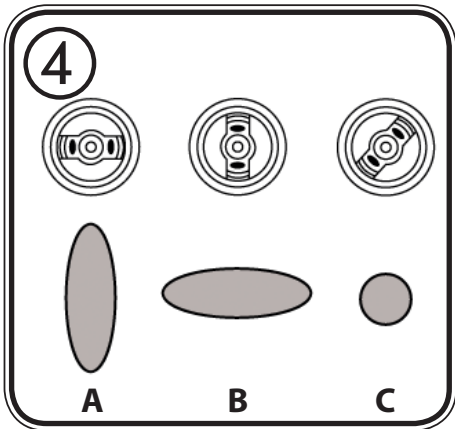
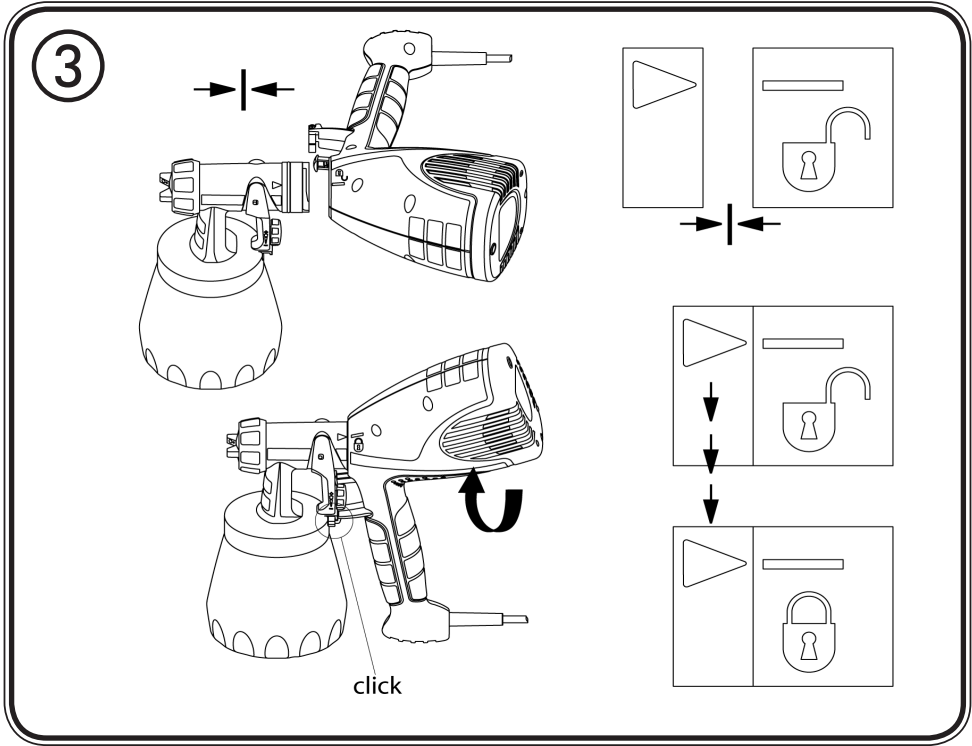
**CLICK  
&  
PAINT** TECHNOLOGY

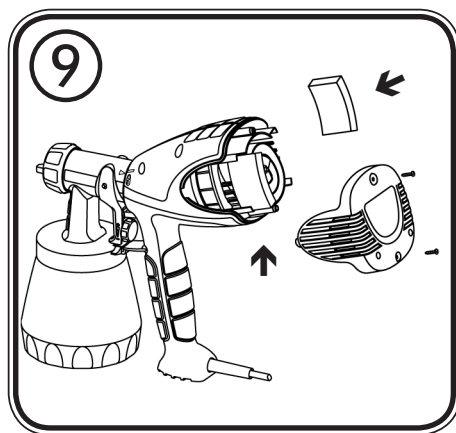
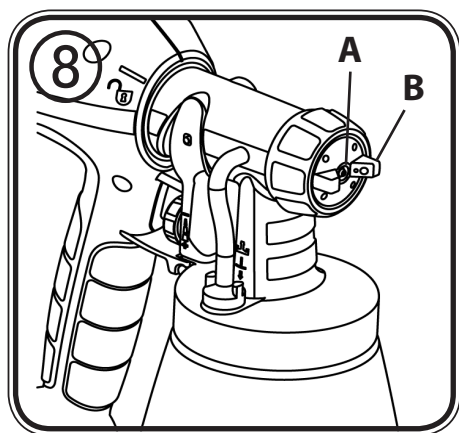
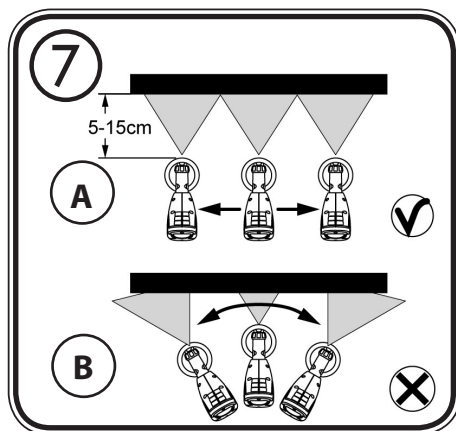
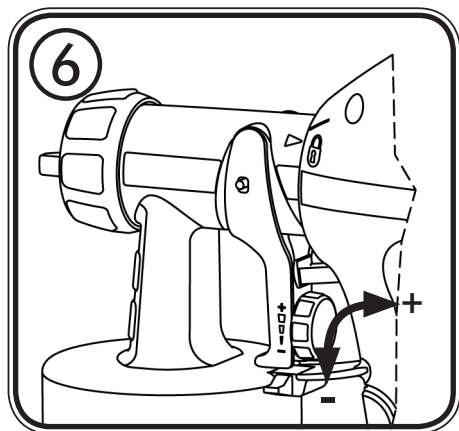


**W550**  
**JP**

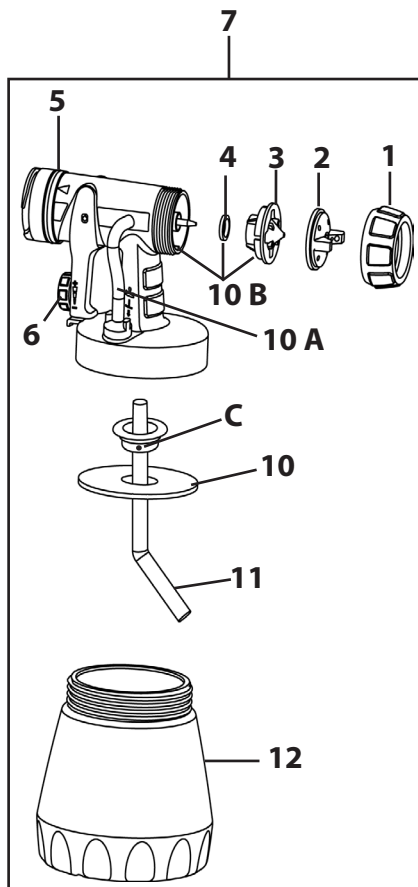
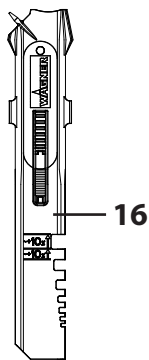
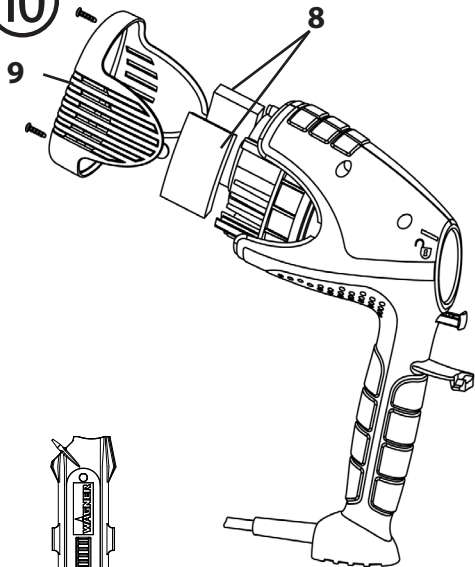




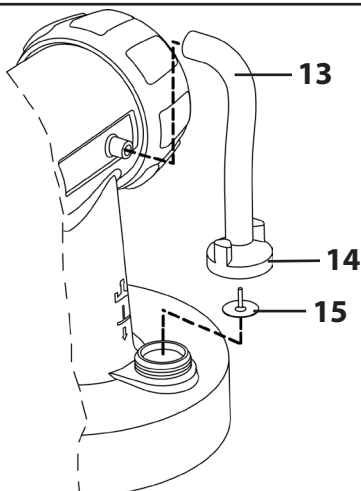




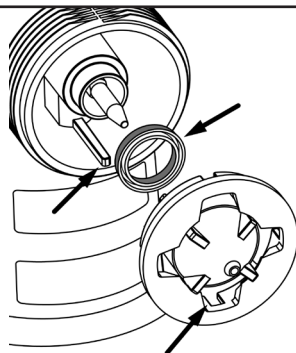
10



10A



10B








## 操作説明書

本機の使用を開始する前に、操作説明書を注意深く読み、安全規定ならびに記載されている指示に従ってください。

### 目次

1. 記号の説明 .....	7
2. 安全規定 .....	8
3. スプレーガンの使用上の注意 .....	10
4. セット構成 .....	11
5. 使用できるコーティング剤 .....	11
6. 使用できないコーティング剤 .....	11
7. コーティング剤の準備 .....	12
8. 使用開始 .....	12
9. スプレーパターンの調整 .....	12
10. 吐出量の調整 (図6) .....	12
11. 正しいスプレー方法 .....	13
12. 使用の中断 .....	13
13. 使用の停止とクリーニング .....	13
14. メンテナンス .....	15
15. 交換部品リスト .....	15
16. 付属品 .....	15
17. トラブルシューティング .....	16
18. 技術データ .....	17
19. 廃棄に関する注意 .....	17
20. 製造物責任に関する重要事項 .....	17

### 1. 記号の説明

	この記号は、使用者または機器に対する潜在的な危険性を示します。この記号の下には、怪我や機器の損傷を防ぐために重要な情報が記載されています。
	電気ショックの恐れ
	使用上のコツや、便利なヒントを示します。

## 2. 安全規定

**注意!** 法律で定められている規則および安全要件のすべてに従う必要があります。危険を回避するため、操作説明書を注意深く読み、記載されている指示に従ってください。

### 1. 作業環境の安全性

- a) 作業環境は、清潔に保ち、十分な照明を用意してください。整頓されていない場所、照明の不十分な場所での作業は、事故につながりかねません。
- b) 本機は、可燃性の液体や気体、塵のある環境で使用しないでください。本機から出た火花によって、塵や気体が引火する可能性があります。
- c) 本機の使用中は、幼児など、作業者以外の人を近づけないでください。気を取られ、操作を誤る可能性があります。

### 2. 電気の安全性

- a) 本機の電源プラグがコンセントに合っていることを確認します。適切なプラグとコンセントを使うことで、電気ショックのリスクが最小限に抑えられます。
- b) 本機を雨や水で濡らさないでください。本機に水が浸入すると、電気ショック・ショートのリスクが高まります。
- c) ケーブルを、本機の運搬や吊り下げといった目的に使用したり、コンセントから電源プラグを抜くときに引っ張ったりしないでください。ケーブルを、熱やオイル、尖った物、可動部品の近くに置かないでください。ケーブルが破損したり絡まったりすると、電気ショック・ショートのリスクが高まります。
- d) 本機を屋外で使用する場合は、必ず屋外での使用に適した延長ケーブルを使用してください。屋外での使用に適した延長ケーブルを使うことで、電気ショック・ショートのリスクが抑えられます。
- e) 本機を湿気の多い環境で使用しなければならない場合は、漏電遮断器を使用してください。漏電遮断器を使用することで、電気ショック・ショートのリスクが抑えられます。

### 3. 人体の安全

- a) 自分が行っていることに集中し、十分な注意を払って本機を扱うようにしてください。疲れているとき、またはドラッグやアルコール、薬の影響下にあるときは、本機を使用しないでください。本機の使用中は、一瞬の不注意が深刻な怪我につながりかねません。
- b) 個人用防護装備の着用をお勧めします。防塵マスクや滑り止めの付いた安全



靴、安全ゴーグルなどの個人用防護装備を着用すると、怪我のリスクが抑えられます。

- c) 偶発的な作動を防止してください。電源プラグをコンセントに差し込む前に、スイッチが「オフ」(トリガーが押されていない状態)になっていることを確認します。指をトリガーに掛けた状態で本機を運搬したり、電源につないだりすると、事故につながる可能性があります。
- d) 本機を電源につなぐ前に、作業場所から調整用工具やスパナ等を取り除いてください。本機の近くに工具やスパナ等があると、怪我につながる可能性があります。
- e) 不自然な姿勢で作業をしないでください。不自然な体勢でいると、予期しない状況が発生した場合に本機を適切にコントロールできません。
- f) 適切な衣服を着用してください。ゆるめの衣服や垂れ下がる装飾品を着用しないでください。髪、衣服、手袋を可動部に近づけないでください。ゆるい衣服や装飾品、長い髪は、可動部に巻き込まれる可能性があります。
- g) 本機はおもちゃではありません。子供の手の届かない場所で保管し、勝手に使用させないでください。

#### 4. 電源装置の取扱いと使用

- a) 電源に過度な負荷を与えないでください。本機に適した電源を使用してください。適切な電源を使えば、指定の出力範囲で確実に、効率よく作業できます。
- b) スwitchの故障した本機は使用しないでください。スイッチを入れたり切ったりできない本機は、危険なので修理が必要です。
- c) 本機のメンテナンスや付属品の交換を行うとき、または本機をしまうときは、必ずプラグをコンセントから抜いてください。このような安全対策を取ることで、偶発的な事故が防止できます。
- d) 使用していない本機は、子どもの手の届かない場所に保管してください。本機の操作方法に詳しくない人や、操作説明書を読んでいない人には、本機を使用させないでください。
- e) 本機のメンテナンスは、丁寧に行ってください。可動部品がスムーズに作動すること、部品が破損していないこと、部品に本機の機能に影響するような損傷がないことを確認してください。損傷がある部品を修理、または交換してから、本機の使用を再開します。事故の多くは、不適切なメンテナンスに起因しています。
- f) 本機、付属品、交換部品は、その機種に規定されたものを、操作説明書に従って使用してください。その際、必要な作業と作業環境に注意を払ってください。また、規定されている以外の用途に本機を使用すると、危険な状況を招く可能性があります。

## 5. サービス

- a) 本機の修理は、必ず資格を持った専門技術者が正規交換部品を使って行うようにしてください。そうすることで、本機の安全性が保たれます。
- b) 本機の電源ケーブルが損傷した場合は、危険を回避するため、メーカーかその顧客サービス、または同様の資格を持つ販売店に交換を依頼してください。

## 3. スプレーガンの使用上の注意

- 本機を、爆発防護の法令で規制される施設で使用しないでください。
- 作業場所に、火や、火を付けたタバコ、赤熱したワイヤー、高温の表面、研削切断による火花などの引火源がないことを確認してください。
- 危険性を把握していないコーティング剤は、使用しないでください。
- 本機のメンテナンスをする場合、コンセントから電源プラグを必ず抜いてください。
- 可燃性のコーティング剤や洗浄剤を使用しないでください。
- スプレーされたコーティング剤から生じる危険性に配慮し、コーティング剤容器に貼られているラベルや製造メーカーによる注意事項をよく読んでください。
- 防塵マスクを着用してください。準備や作業、本機の洗浄を行う際は、使用しているコーティング剤、溶剤、洗浄剤のメーカーの処理規定に従ってください。場合によっては、皮膚を保護するため、防護服や安全ゴーグル、手袋、皮膚保護クリームが必要です。



危険：怪我の危険性があります！

スプレーガンを自分や他の人、動物に絶対に向けないでください。



スプレーされたコーティング剤がコンセント内に入らないように、作業場所から十分に離れたところで電源を取ってください。スプレーされたコーティング剤がコンセント内に入ると電気ショックの恐れが高まります。



注意！ 本機は、ノズルシールが正しく装着された状態でしか使用できません。ノズルシールが損傷していたり、外れていると、液体が装置内に流れ込む可能性があり、電気ショックの恐れが高まります。使用前にノズルシールを必ず確認してください。

- 屋内や屋外で塗装機を使用する場合、溶剤の蒸気がスプレーガンの方向に流れていかないよう、また、スプレーガンの周辺で溶剤を含む蒸気が発生しないよう、注意してください。
- 屋外では風向きを考慮してください。屋内で作業するときは、溶剤蒸気を散らすため、十分な換気を行う必要があります。
- 本機を子供に触らせないでください。
- 電気機器の処理または修理は、電気技術者だけが実行できます。操作説明書に注意事項が記載されている場合でも、これらの作業は電気技術者に依頼してください。



本機は、チェックバルブセットが正常に機能する状態でしか使用できません。コーティング剤が通気ホース(図1の11)内を上がってきた場合は、本機の使用を中断してください! 通気ホース、チェックバルブカバー、チェックバルブを取り外し、洗浄し、必要ならチェックバルブを交換してください。

- スプレーガンは、横にして置かないでください。

WAGNER の正規付属品および交換部品のみ使用してください。正規付属品および交換部品以外のパーツの使用、また取り付けが不適切であった場合、保証対象外になります。

## 4. セット構成

セット構成 (図1)	
1) エアーキャップ	2) ノズル
3) ジョイントナット	4) スプレーガン アタッチメント部
5) トリガー	6) スプレーガン エアータービン部
7) 吐出量コントローラ	8) エアーフィルターカバー
9) 電源ケーブル	10) コンテナー
11) 通気ホース	12) チェックバルブカバー
13) 攪拌スティック	14) 操作説明書
15) 洗浄ブラシ	16) 防塵マスク (油性塗料使用時には対応できません)
17) 交換用ノズルシール ※図表記なし	18) グリース ※図表記なし

## 5. 使用できるコーティング剤

水性および油性の木材保護塗料、仕上げ塗料、下塗り塗料、二液型塗料(可使時間に注意)、クリアコート

## 6. 使用できないコーティング剤

強い研磨成分を含んだ塗料

砂状塗料

苛性ソーダー

可燃性塗料

二液型塗料で可使時間の短い塗料

## 7. コーティング剤の準備

コーティング剤の容器や包装材、または同梱の資料に記載されている取扱上の注意を参照し、必要に応じて希釈してください。

## 8. 使用開始

電源に接続する前に、電圧が銘板に記載されている使用電圧と一致していることを確認してください。

- スプレーガンからコンテナを外します。
- サクションチューブの位置を調整します。(図2)  
 サクションチューブが正しい位置にあれば、効率よくコーティング剤を使用することができます。  
 床と水平に置いた被塗物を塗装する場合： サクションチューブを前に回します。(図2A)  
 頭上の被塗物を塗装する場合： サクションチューブを後ろに回します。(図2B)
- コンテナを紙(新聞紙、段ボールなど)の上に置き、準備したコーティング剤を充填します。充填が終了したら、コンテナをしっかりとスプレーガンに取り付けます。
- スプレーガンのアタッチメント部とエアタービン部を接続します。(図3)
- スプレーガンを水平な場所に置きます。水平でない場所に置くと、スプレーガンが倒れる可能性がありますので注意してください。
- **スプレーガンのトリガーを引きます。W 550 には、2段階式のトリガーが装備されています。第1段階まで引くと、エアーが噴霧します。トリガーをさらに深く引くと、エアーとコーティング剤が噴霧します。**
- スプレーパターンを調整します。

## 9. スプレーパターンの調整

塗装方法や被塗物に合わせて、3種類のスプレーパターンが選択できます。



**警告!ケガの恐れ!**

エアーキャップを調整している際は、絶対にトリガーを引かないでください。

ジョイントナット(図5, 1)をわずかに緩め、エアーキャップ(2)を適切なスプレーパターンの位置に合わせます。最後にジョイントナットをしっかりと締めます。

- 図 4 A** = 垂直スプレー → 横長の塗装面に  
**図 4 B** = 水平スプレー → 縦長の塗装面に  
**図 4 C** = 丸スプレー → コーナー部、角部に

## 10. 吐出量の調整(図6)

トリガー部分の吐出量コントローラを回転させることで、吐出量を調整できます。

- 左方向に回転 → 吐出量の減少

+ 右方向に回転 → 吐出量の増加

## 11. 正しいスプレー方法

- コーティング結果は塗装面の滑らかさや清潔さに大きく左右されます。そのため、スプレーを開始する前に塗装面を清潔にし、十分に準備することが大切です。
- 塗装しない場所はしっかりとマスキングしてください。
- 段ボールの上で噴霧を試し、スプレーパターンと吐出量を調整されることをお勧めします。

重要: 被塗物に当たらない場所からスプレーを開始します。また、被塗物へのスプレー中に中断しないようにしてください。

- 正しいスプレー方法 (図7A): スプレーガンと被塗物との間隔を、常に一定間隔 (約5~15cm) に保ちます。
- 間違ったスプレー方法 (図7B): スプレーガンと被塗物との間隔が一定でないと、塗料飛散が多くなり、塗装面にムラが生じます。
- スプレーガンを、横に、または縦に、均一な速度で動かします。(9. スプレーパターンの調整参照) 均一に動かすことで、塗装面のムラが防げます。
- コーティング剤がノズル (図8A) やエアークャップ (図8B) に付着した場合は、各パーツを溶剤あるいは水で洗浄してください。

## 12. 使用の中断

- 長時間にわたり休憩する場合は、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 二液型塗料を使用している場合は、ただちに適切な洗浄剤を使って本機を洗浄してください。

## 13. 使用の停止とクリーニング

スプレー装置の快適な使用のために、適切なクリーニングは欠かせません。不適切なクリーニングによって生じた本機の不具合は、保証対象外になりますのでご注意ください。

- 1) 電源プラグをコンセントから抜いてください。長時間作業を中断した際は、1) コンテナを軽く緩め再び締め直す、2) またはトリガーを引き、コーティング剤を捨て吹きすることでコンテナ内の通気を行ってください。
- 2) スプレーガンを分解します。フック (図3) を軽く下に押え、スプレーガンのアタッチメント部をエアータービン部から回転させて外します。
- 3) コンテナを外します。残ったコーティング剤は元の容器に戻し、コンテナを空にします。
- 4) コンテナ、サクションチューブ、コンテナシーンをブラシで洗浄します。通気穴 (図10, C) にコーティング剤が付着していないことを確認してください。
- 5) コンテナに洗浄剤 (溶剤または水) を充填します。コンテナを取り付けます。可燃性物質を使った洗浄は行わないでください。
- 6) スプレーガンのアタッチメント部とエアータービン部を再びつなぎます。(図3)

- 7) 電源プラグを差し込み、スプレーガンから洗浄剤（溶剤または水）をバケツに捨て吹きします。ノズルから透明な洗浄剤（溶剤または水）が出てくるまで、上記の手順を繰り返します。

**注意!** 洗浄剤を捨て吹きする時、開口部の小さい空き缶などには吹き戻さないでください。溶剤で洗浄する場合、爆発性の混合ガスが発生して危険です。コーティング剤、洗浄剤は、各メーカーの指示、および国・地方自治体の法規定に従い処理してください。勝手に側溝（下水）などに廃棄しないでください。

- 8) クリーニングを終了し、電源プラグをコンセントから抜いてください。  
9) コンテナを取り外し、空にします。サクシオンチューブを取り外します。



**注意!** スプレーガンのシール、チェックバルブ、ノズル口、通気口を洗浄する際、尖った金属製の道具は絶対に使わないでください。また、通気ホース、チェックバルブ、Oリングは、耐溶剤性があまり高くありません。溶剤に浸さず、拭くだけにしてください。

- 10) 通気ホース（図10A, 13）をスプレーガン本体から引き抜きます。チェックバルブカバー（14）を緩め、チェックバルブ（15）を取り出します。すべての部品を丁寧に拭きます。



**警告!** スプレーガンのエアタービン部は、水や洗浄剤に浸さないでください。湿った布で汚れやほこりをふき取ってください。

- 11) スプレーガンやコンテナの外側に付着したコーティング剤は、洗浄剤（溶剤または水）に浸した布でふき取ります。  
12) ジョイントナット（図10,1）を取り外し、エアークャップ（2）、ノズル（3）、ノズルシール（4）を外します。すべての部品をブラシを使って丁寧に洗浄します。

## 組立

本機はチェックバルブ（図10A, 15）が無い状態では使用できません。チェックバルブのピン部を上方向にして、チェックバルブカバーを締めます。通気ホースをスプレーガン本体に取り付けます。



**注意!** 本機は、ノズルシールが正しく装着された状態でしか使用できません。ノズルシールが損傷していたり、外れていると、液体が装置内に流れ込む可能性があり、電気ショックの恐れが高まります。使用前にノズルシールを必ず確認してください。

ノズルシール（図10, 4）を、切り込み（スリット）がノズル側に来るように取り付けます。（図10B）ノズルをスプレーガン本体にはめこみ、エアークャップをノズルに被せてジョイントナットを締めます。

コンテナシールをサクシオンチューブの下から取付けます。コンテナシールがサクシオンチューブのカラー（窪み）にしっかり入っているか、コンテナシールを軽く回して確認します。コンテナシールを取り付けたサクシオンチューブを、スプレーガン本体にはめ込みます。

## 14. メンテナンス



警告！ エアーフィルターなしで本機を作動させないでください。飛散したコーティング剤ゴミ、ほこりなどが吸い込まれ、エアー風量の減少やモーターの故障の原因になります。部品を交換する時は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

- エアーフィルターが汚れている場合は交換します。(図9)
- スプレーガンの組立をスムーズに行うために、同封のグリースをアタッチメント部のOリング(図10, 5)に塗ります。

## 15. 交換部品リスト

交換部品リスト (図 10)

項目	名称	注文番号
1	ジョイントナット	0417 319
2	エアーキャップ	0414 384
3	ノズル (1.8 mm)	0414 381
4	ノズルシール	0417 706
5	Oリング (スプレーガン アタッチメント部)	0417 308
6	吐出量コントローラセット (バネ付)	0417 910
7	スプレーガン アタッチメント部セット (800 ml コンテナー付)	2317 753
8	エアーフィルターセット	0417 912
9	エアーフィルターカバー	0417 303
10	コンテナーシール	0417 358
11	サクシジョンチューブ	0417 357
12	コンテナー800 ml (蓋付)	0413 909
13,14,15	チェックバルブセット (通気ホース、チェックバルブカバー、チェックバルブ)	2304 027
16	攪拌スティック	2339 827
17	グリース ※図表記なし	2315 539

## 16. 付属品

追加のスプレーガンアタッチメントや付属品を利用することで、作業環境に合わせた快適なスプレーが可能です。

付属品 (セット構成には含まれません)

名称	注文番号
コンテナー800 ml (蓋付) 塗料の乾燥や溶剤の蒸発を防ぎます。	0413 909
HVLP ハンドルエクステンション 天井や手の届きにくい場所の塗装に。	2307 678

### 付属品(セット構成には含まれません)

標準スプレーガンアタッチメント(コンテナー800 ml 付) 中～大サイズの塗装物や家具に。	0417 914
ローボリウム・スプレーガンアタッチメント(コンテナー250 ml 付) 繊細で複雑な被塗物に。	0417 918
ハイボリウム・スプレーガンアタッチメント(コンテナー1400 ml 付) 大サイズの塗装物(例:木造家屋、ガレージ扉)を素早く仕上げたい時に。	0417 917

## 17. トラブルシューティング

トラブル	考えられる原因	解決策
ノズルからコーティング剤が出てこない	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ノズルが詰まっている</li> <li>●サクシオンチューブが詰まっている</li> <li>●吐出量コントローラの調整が左(-)に回りすぎている</li> <li>●サクシオンチューブが外れている</li> <li>●コンテナー内に圧力がかかっていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>→ 分解洗浄</li> <li>→ 分解洗浄</li> <li>→ 右 (+)に回す</li> <li>→ サクシオンチューブを確認する</li> <li>→ コンテナーをしっかり締めつける</li> </ul>
ノズルからコーティング剤が垂れる	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ノズルが緩んでいる</li> <li>●ノズルが磨耗している</li> <li>●ノズルシールが磨耗している</li> <li>●エアーキャップ、ノズル、ニードルが汚れている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>→ ジョイントナットを締めつける</li> <li>→ 交換</li> <li>→ 交換</li> <li>→ 分解洗浄</li> </ul>
噴霧が粗い	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コーティング剤の粘度が高すぎる</li> <li>●吐出量が多すぎる 吐出量コントローラの調整が右 (+)に回りすぎている</li> <li>●ノズルが汚れている</li> <li>●エアーフィルターの汚れがひどい</li> <li>●コンテナー内の圧力が低すぎる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>→ 薄める</li> <li>→ 左 (-)に回す</li> <li>→ 洗浄</li> <li>→ 交換</li> <li>→ コンテナーをしっかり締めつける</li> </ul>
噴霧にムラがある	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コンテナー内のコーティング剤が少ない</li> <li>●エアーフィルターの汚れがひどい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>→ 補充</li> <li>→ 交換</li> </ul>
スプレーしたコーティング剤が流れる(垂れる)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●コーティング剤の吐出量が多すぎる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>→ 吐出量コントローラを左 (-)に回す</li> </ul>



トラブル	考えられる原因	解決策
塗料飛散が多い	<ul style="list-style-type: none"> <li>●被塗物との距離が長すぎる</li> <li>●吐出量が多すぎる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>→ 吹き付け距離を短くする(11章を参照)</li> <li>→ 吐出量コントローラを左(-)に回す</li> </ul>
通気ホースにコーティング剤が入る	<ul style="list-style-type: none"> <li>●チェックバルブが汚れている</li> <li>●チェックバルブが破損している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>→ 洗浄</li> <li>→ 交換</li> </ul>

## 18. 技術データ

技術データ	
電源:	100 V, 50/60 Hz
消費電力:	175 W
エアー圧力:	75 hPa
エアー風量:	355 l/min
二重絶縁:	<input type="checkbox"/>
騒音レベル:	79 dB (A)
重量:	1,3 kg

## 19. 廃棄に関する注意



本機の廃棄、およびコーティング剤、洗浄剤の廃棄に関しては、国・地方自治体の消防・電気・安全関連の法規定、および各メーカーの指示に従ってください。

## 20. 製造物責任に関する重要事項

1990年1月1日に発効したEU規制に従い、メーカーは、すべての部品がメーカー製であるか、メーカーによって認可されたものであり、機器の組立と操作が正しく行われた場合のみ、製造物に対し責任を負います。他社製の付属品および交換部品を使用した場合、製造物責任の一部または全部が無効になります。極端なケースでは、管轄当局(同業組合および営業監督庁)によって機器全体の使用が禁止されることもあります。


WAGNER 製の付属品および交換部品を使用しないと、安全規定を満たすことができません。

保証規定

日本ワグナー・スプレーテック株式会社（以下「日本ワグナー」）は、本製品の材質上および製造上の欠陥により、正常な使用状態および使用後の完全な洗浄状態にもかかわらず、故障が生じた場合は、以下の保証規定に従い保証いたします。

1. 保証書に表記している保証期間内に、お客様に次の手続きをとっていただくことを条件として、無償で故障品を修理いたします。
  - (1) お買い上げの販売店に、お買い上げを証明する書面(レシート、納品書等)と保証書を提示すること
  - (2) 故障品を、保証書とともに販売店が指定する宛先に返送すること
  
2. 本保証は、日本ワグナーが不具合の原因が次の場合であると判断したときには適用されませんのでご了承ください。
  - (1) 取扱説明書に記載の使用方法、注意事項に従わない使用がなされた場合
  - (2) 日本ワグナーまたは日本ワグナーが認めたサービス代理店以外の第三者により不当な修理、調整、改造がなされた場合
  - (3) 消耗部品の摩耗による故障、および消耗部品の交換
  - (4) 不十分な洗浄およびメンテナンスによる故障、損傷
  - (5) お客様による輸送、移動時の落下、転倒、衝撃等による故障、損傷
  - (6) 地震、火災、落雷、洪水等の自然災害、その他の外部要因によって生じた故障、損傷

保証書

		保証期間：お買い上げ日より1年間	
製品名：		W550	本体No.：
お客様	(ふりがな) お名前		
	ご住所 〒		
	電話		
販売店	店名・住所・電話		
Ⓜ			
※販売店の印鑑がない場合は、購入レシートもしくは納品書を張り付けてください。			



日本ワグナー・スプレーテック株式会社

〒574-0057

大阪府大東市 新田西町2-35

TEL: 072-874-3561

FAX: 072-874-3426

電子メール: [marketing@wagner-japan.co.jp](mailto:marketing@wagner-japan.co.jp)